

## 平成27年度 山形のみちづくり評議会 (第1回)

### 議事要旨

#### 1. 日時

平成27年11月26日(木) 14:00~16:00

#### 2. 出席委員

柴田会長、貝山委員、塩原委員、宮原委員、小山委員、畠山委員(和田委員代理)、  
廣瀬委員、上坂委員

#### 3. 議事

- (1) 平成26年度 達成度報告書について (資料1)
- (2) 「やまがた道の駅ビジョン2020(仮称)」骨子(案)について (資料2)

#### 4. 議事概要

##### (1) 平成26年度 達成度報告書について

○平成26年度供用箇所を踏まえ、山形県道路中期計画の平成26年度達成度について事務局より報告し、主に以下のような意見交換がなされた。

- ・各施策の取組みを進めるにあたり、行政と地域が連携し、地域の実情に応じた事業を実施する必要がある。
- ・施策の優先度として、「安全・安心」の視点とともに、「道路空間の魅力づくり」についても、地域との連携を考えながら今後配慮していくことが望ましい。

##### (2) やまがた道の駅ビジョン2020(仮称)」骨子(案)について

○「やまがた道の駅ビジョン2020(仮称)」骨子(案)について事務局より説明を行い、主に以下のような意見交換がなされた。

- ・基本目標にある「山形らしさ・独自性」を十分に検討した上で、基本3機能の更なる充実を図ることが魅力を高めるために重要である。
- ・基本3機能の充実とともに、防災や観光等の地域に応じた付加機能を持たせることが重要である。
- ・施設の内容だけではなく運営方法も重要な要素であり、行政の関わり方を含めて運営方法を柔軟に検討していくことが望ましい。

## 5. 山形のみちづくり評議会（第1回）における主な意見

### 5-1 平成26年度達成度報告書について

#### (1) 防災対策について

- ・ 防災対策については、要対策箇所を更にランク付けして緊急度の高い箇所から順次対策工事を進めているとのことだが、安全・安心の面から一つでも多くの対策工事を進めていくべきである。
- ・ 今年9月の大雨では、河川の氾濫には至らなかったものの緊急避難する状況となった地区があった。そのような地区を含め、雨や雪崩等の対策が必要な箇所には県や市町村が連携して安全を確保することが必要である。

#### (2) 交通安全対策について

- ・ 幅員の狭い道路におけるグリーンベルトの設置は、歩行者の安全確保のために有効であるが、郊外の温泉地のように自動車交通量が少なく歩行者（観光客）が多い箇所などでは、歩行者が優先されるような道路整備もあって良いのではないか。
- ・ 道路管理者と利用者（地域）の意識が異なることも多いため、対策の検討にあたっては地域住民と十分に協議することが必要ではないか。

#### (3) 道路除雪について

- ・ 過疎化や高齢化の進展に伴い、地域住民による適切な除雪・排雪が困難な地域が増えてきているため、自治体や地域が一体となり今後の除雪対策を検討することが必要ではないか。

#### (4) 事業取組みの視点について

- ・ 施策の優先度として、現在の「安全・安心」の視点とともに、今後は「道路空間の魅力づくり」の視点にも配慮することが望ましい。街路樹等の整備により、道路空間の魅力や潤いの創出、街中観光の増加等の効果が期待でき、維持管理に関して上手く地域と連携することで、コスト縮減とともに地域コミュニティの存続や活性化にも寄与するのではないか。

## 5-2 「やまがた道の駅ビジョン 2020（仮称）」骨子（案）について

### (1) 基本目標について

- ・ 基本目標にある「山形らしさ・独自性」について十分検討した上で、魅力ある「道の駅」の整備を進めることが望ましい。

### (2) 「道の駅」の機能について

#### 1) 「道の駅」に必要な機能について

- ・ 「道の駅」の基本機能は、「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」であるが、近年「道の駅」の機能は多様化しており、付加すべき機能を柔軟に考えることが必要ではないか。

#### 2) 休憩機能について

- ・ トイレは「道の駅」の魅力を高める重要な要素であるため、洋式化を図ることはもちろん、（高速道路のサービスエリアなどのように）広く清潔で、多くの機能（オストメイトや赤ちゃん対応等）を持ったトイレの整備が必要ではないか。

#### 3) 情報発信機能について

- ・ 最近ではスマートフォンやタブレットで簡単に情報（道路、地域、観光、天気等）を入手できるため、「道の駅」における情報提供はより詳細で即時性が高いもの（道の駅のおすすめ情報、ピンポイント天気、地域のイベント情報等）が求められている。
- ・ 「道の駅」間で連携し情報を共有することで利用者が周遊しやすい環境を目指すと同時に、情報提供システムの構築や既存のホームページ等の活用など、効果的で効率的な手段を検討することが望ましい。

#### 4) 地域連携機能について

- ・ 自治体が費用を負担することから、地域にメリットがあることが前提であり、観光客(地域外)だけを対象とするのではなく、地域のために地域内外の交流拠点となる「道の駅」であることも必要ではないか。

#### 5) 地域連携機能（産直施設）について

- ・ 産直施設は山形の強みであり、貴重なビジネスチャンスであるため、これからも充実させていくことが望ましい。
- ・ 「道の駅」の整備が既存の商業施設の衰退に繋がるのは地域全体としては好ましくないため、「道の駅」は新商品の開発・販売する起業者の挑戦の場を提供する等して、既存の商業施設との役割分担を図ることも必要である。

#### 6) 防災機能について

- ・ 震災の教訓もあり、近年防災機能を持った「道の駅」が増えてきている。ビジョンの中で防災機能を明確に位置付けていくべきであり、県内の主要な「道の駅」については防災拠点としての整備を進めることが望ましい。

#### 7) 観光・インバウンドについて

- ・ 一般的な観光案内だけでなく、商品等（実演やビデオによる紹介等を含め）を通じて地域の魅力を伝え「道の駅」の利用者と地域を繋ぐ役割を担うことが望まれる。また、宿泊の手配等の様々なサポートを行う等、感謝される「道の駅」であってほしい。
- ・ 山形県は外国人観光客の誘致を進めており、特にトイレの洋式化と無料 Wi-Fi への対応は必要不可欠である。

8) その他の機能について

- ・ 独自性がある「道の駅」として、公共施設と一体となった「道の駅」や、交流促進の取組み（大学と連携した職業体験等）を進める「道の駅」が県内にも更に増えていくことが望ましい。

(3) 「道の駅」の配置・案内について

- ・ 現在県内においては無料の高速道路の整備が進められているが、休憩できる場所が少ないため、高速道路・一般道両方から行き来できる「道の駅」が多く設置されるとよい。
- ・ 高速道路に並行した一般道路沿いの「道の駅」や交通量が多い国道から離れた場所にある「道の駅」などは、各道路の分岐点での案内標示が十分ではないため、うまく誘導できていない。既存の施設の有効活用を図っていくために、案内方法の改善を検討する必要があるのではないかと。

(4) 「道の駅」の運営方法について

- ・ 施設の内容だけでなく運営方法も重要な要素であるため、他地域の成功事例や観光分野のノウハウを活用しながら、行政の関わり方を含めて運営方法を柔軟に検討していくことが望ましい。
- ・ 周辺施設と連携することで複数施設を一体的に利用してもらうことも必要ではないかと。
- ・ 「道の駅」が立地している自治体だけではなく、周辺の複数の自治体が協力して1つの「道の駅」を整備することもあってよいのではないかと。
- ・ 「道の駅」を設置する際には、計画の段階から地域住民も議論に参加し「道の駅」づくりに加わることで、地域の特徴を活かした魅力ある「道の駅」になるのではないかと。

(5) 広報について

- ・ パンフレットや山形県のアンテナショップを活用する等して、山形県の「道の駅」の売りをうまくPRして来訪者を増加させていくような工夫が必要である。

以上